

これからの女川のまちづくりに期待される取組

将来にわたっていきいきと
暮らし続けられるまちをめざして



公民連携による
リノベーションまちづくりの
更なる推進！

1.歩いて楽しい街づくりの推進！

※更なるウォーカブルタウンへ

レンガみち＋シーパルピア＋ハマテラス＋まちなか交流館

駅前商業エリア＋鷺神浜商業エリアへ

高台住宅地＋被災を免れた市街地へ

女川を取り巻く3山を結ぶトレッキングルートへ

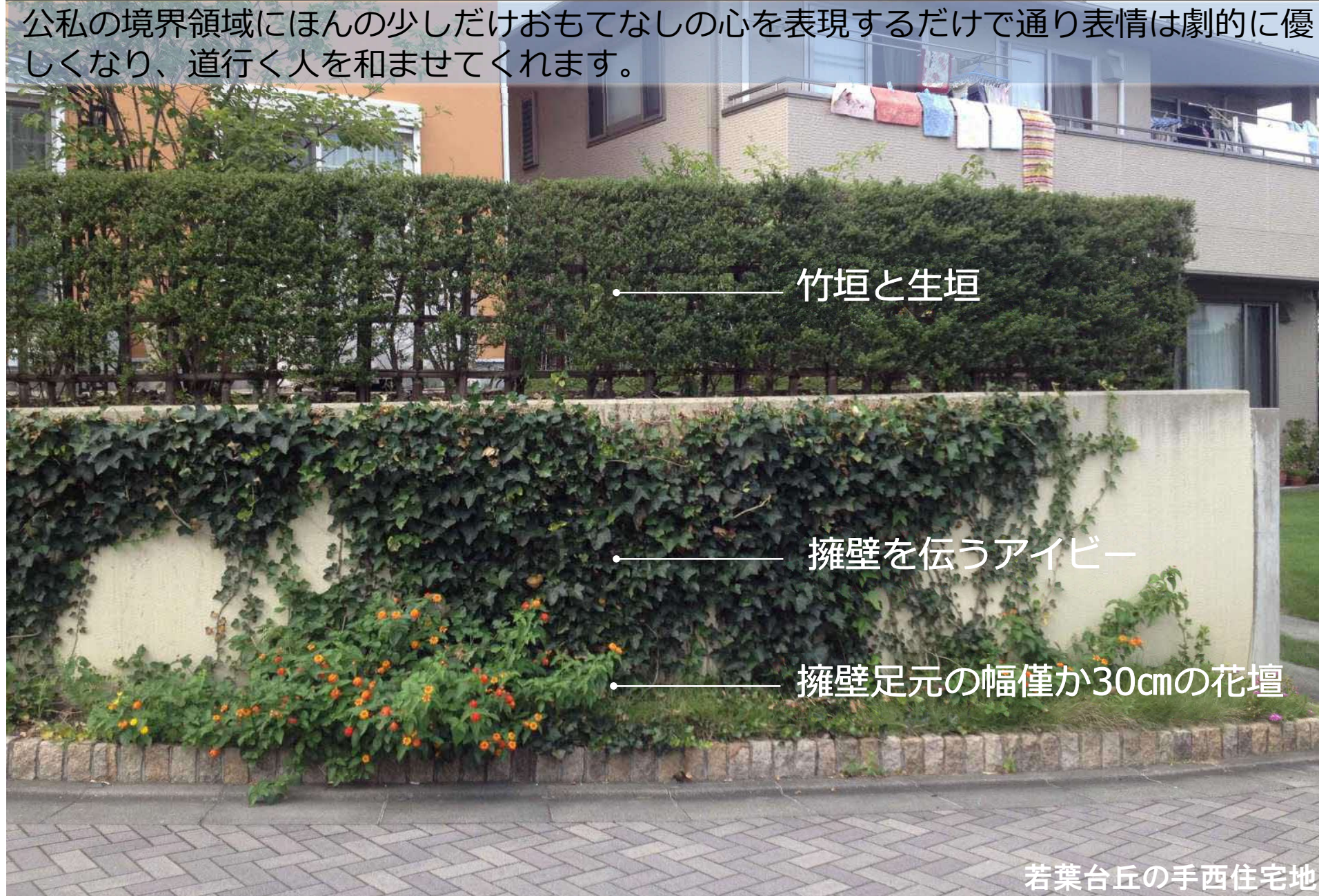
離半島（出島・江島他）へ

快適な空間や美しい景観は観光客だけの
ためではなく、むしろ毎日を過ごす住民
のためにこそ必要だ。そこにまちづくり
の原動力がある

by 市村次夫(株式会社小布施堂社長)

①道行く人を楽しませる外構緑化

公私の境界領域にほんの少しだけおもてなしの心を表現するだけで通り表情は劇的に優しくなり、道行く人を和ませてくれます。



——— 竹垣と生垣

——— 擁壁を伝うアイビー

——— 擁壁足元の幅僅か30cmの花壇

若葉台丘の手西住宅地

②民民・官民境界のセミパブリック空間化

自分の敷地さえよければ。これは普通の考え方ですが、この事例のようにお隣同士で土地を共有し通り抜けを認め合うことで、まさに奥行きが生まれ、魅力を増していきます。



ゲストハウス小布施

女川にも、見習ってほしい好事例が大新さんとニューこのりさんの相互理解と協力により生まれています。



③空地の利活用-1 コミュニティガーデン

エルファロは「灯台」という意味ですが、全体の配置はスペインの小さな村をコンセプトにしています。宿泊客が歩いて楽しくなるように、路地とトレーラーの「隙間＝空地」をコミュニティガーデンとして利活用しています。



③空地の利活用-4

これまでの見込み生産ではなく、女川に積極的に住みたい人をターゲットにした高気密高断熱住宅をコーポラティブ方式（組合方式＝受注生産）によって建設



ヴィレッジ浄瑠璃14（東京都八王子市）

④道普請の推進

(仮称) ふれあいの小道
区画整理事業によって最低限必要な道路は整備されました。でも完璧ではありません。
“繋がってたらいいな”を、少しずつで構わないのでみんなで実現しちゃいましょう！



2.津波による被災を免れたエリアの 魅力発見と価値向上

女川のこれからのまちづくりを考えるうえで、辛くも津波を免れたエリアを忘れてはいけません。区画整理事業により生まれ変わったエリアと一体となって、これらのエリアのお宝を再発見し魅力を高めていきましょう。（→リノベーションまちづくりの推進）



3.被災低地における土地活用の推進

清水公園の奥に確保された町有地を、オートキャンプサイト、キャビン、サウナ、貸農園等子供から大人が楽しめるアウトドアヴィレッジとして活用



4. 女川テラスプロジェクト

女川の魅力は「鮮魚」「水産加工食品」「人」だけではありません。「女川湾を望むダイナミックな景観資源」があることを忘れてはいけません。せっかく整備された「女川ふるさと林道」等を活かして、この写真のような景色が独り占めできる一泊5万円ぐらい出しても泊まりたくなるような、ゴージャスなホテル建設にチャレンジしませんか？

